



長岡市立 大積小学校

◆学校データ

【学級数】 3学級

【児童数】 18人

【地域コーディネーターの有無】
無

地域への誇りと愛着を育み、地域に貢献する教育活動の推進

1 はじめに

当校は、自然豊かな環境にあり、校庭には地域のシンボルである白つつじが植えられている。地域にある大白つつじの挿し芽を育て、地域の方や保護者と一緒に白つつじの苔玉作りにも取り組んでいる。学校裏には里山「にじのこの里」があり、生活科や総合的な学習の時間などに活用している。また、花壇活動も盛んで、長岡市主催の「花いっぱいコンクール」では、毎年優秀な成績を収めている。

近年、長岡市花いっぱいフェア（H29）、大積PA（H30）、東京都表参道「新潟館ネスパス」（R1）で苔玉販売、大積の魅力の発信活動を行ってきた。

いろいろなところで繰り返し発信することで、児童は情報発信者としての学びや意識を高めてきた。また、学校が発信活動を担うことで、ともに地域活性化を目指す一員として地域から期待されている。

しかし、児童の中には「白つつじは地域に昔から当たり前あるもの」「花壇活動も毎年必ずやるもの」との思いのあることもうかがえ、活動のマンネリ化が懸念されてきた。

そこで、児童が主体的に地域と課題を共有し、地域とともに本気で地域の未来を考え創ろうとする学びの実現を目指し、以下のような実践を行った。

2 取組の実際

(1) 双方向性のある発信交流活動

同じ中学校区で隣接する宮本小学校との合同英語活動の中で、大積の白つつじや苔玉作り



苔玉を紹介する様子

り、これまでの発信活動を話題にしたことがきっかけとなり、互いの学校の地域連携活動を紹介し合うことにした。

〈児童の感想〉

- ・宮本小学校も大積小学校と同じで、学校で花を育てて地域のお年寄りに花鉢を届けたり、地域の人と一緒に焼き芋大会を行ったりして地域とともに活動していることがわかった。大積小の活動の参考にしていきたい。
- ・近くの学校なのにそれぞれの学校の活動を全然知らなかった。宮本小のみんなの感想を聞いて、大積の白つつじや苔玉は大切だと分かった。

それぞれの学校が、地域活性化につながる活動をどのように行っているのかを知るとともに、自校の活動に生かしていこうとする意欲をもつことができた。

(2) 地域のSDGs（地域創生）を考える

高学年の総合的な学習の時間に児童個々のSDGsについて考え、学習発表会で保護者や地域の方々に向けて発表した。こ



一人一人が説明する様子

のことを機に膨らんだ大積地域のSDGsについても考えたいとの児童の思いや願いにより、次のような学習を行った。

①「魅力ある大積を創る会」の方々から学ぶ

「なぜ大積は白つつじなのか」に焦点をあて、大積の町内会長を中心に結成した「魅力ある大積を創る会」の方々から大積の町の歴史、白つつじのゆえんなどについて学んだ。白つつじをシンボルとして、何とか大積を盛り立て町おこしを図りたいという地域の願いを知った。



話を聞く様子

〈児童の感想〉

- ・僕も子どもの数が少なくなっていることは心配していたが、地域を心配するだけでなく、地域のためにできることを実行しているのがすごい。
- ・話を聞いていて、魅力ある大積を創る会の方の地域への思いがすごく伝わってきた。

②地域の企業から学ぶ

学校の花壇活動で植えられる花は、地域の企業から毎年春に提供される。この企業は大積小だけでなく、中学校区小中4校、大積地域の住民に花の苗を20年前から提供している。代表者の方から、学校や地域のために尽くす思いや郷土愛について学んだ。

〈代表者の思い〉

20年前は子どもがたくさんいて、通学路にまで花が置かれ、町ゆく人がきれいだと驚いていた。今は子どもの数は減ったが、花壇活動を頑張り、コンクールで賞をもらうほどだ。私はそんな子どもたちを応援したい。そして地域の活性化を図りたい。

児童もその話に関心を打たれ、自分たちにできることは何かを考えていく意欲をもつことができた。

(3) 地域の思いと大積小の取組を発信

～YouTubeで発信する

大積の魅力は様々な場所で発信してきた。しかし、コロナ禍で発信活動に出向くことができない。また、特定の場所で発信しても、近隣の学校の情報を共有できていなかったことから、広くは情報発信できていないことに気づいた。そこで、誰もがいつでも大積小学校の情報を得ることができるYouTubeでの発信準備を進めている。動画作成の方法、作成時のポイントや留意点、情報モラル等について調べたり、実際にアップしている他校の動画を参考にしたりしながら、どのような動画をどのように作成するか検討しているところである。2月末までの完成を目指している。

3 成果と課題

〈成果〉

- ・他校と発信交流活動を行い感想を聞くことで、改めて大積の魅力を実感できた。
- ・地域のSDGsを知ることで、より一層地域への愛が深まり、自分たちにできることは何かを考え、主体的に発信しようとする意欲をもつことができた。

〈課題〉

- ・児童数が減少する中、活動を精選しながらも児童たちにより郷土愛を深められる活動を仕組んでいく。

4 おわりに

次年度も、児童が主体的に一つ一つの活動に取り組む姿を大切にしていこう。そして、今後も学校を地域活性化の拠点の一つとし、地域と連携して取組を進めていきたい。